

第43期（2023年度）
クレバー産業株式会社

環境経営レポート

対象期間：2023年9月1日～2024年8月31日

発行：2024年12月16日



第43期（2023年度） 環境経営レポート

目次

・クレバー産業のあゆみ -----	P3
・経営理念/環境経営方針 -----	P4
・組織の概要 -----	P5
・組織図 -----	P6
・主な環境負荷の実績/経営指針書の目標・評価 -----	P7
・環境経営計画と取り組み結果とその評価、次年度の取り組み ----	P9
▷電力による二酸化炭素排出量の削減 -----	P10
▷自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減 -----	P12
▷一般廃棄物の削減(紙類) -----	P13
▷廃プラの削減 -----	P14
▷水道水の削減 -----	P15
▷推移 -----	P16
・環境目標/実績 -----	P17
・環境委員の活動の紹介 -----	P18
・環境活動の受賞 -----	P19
・防災訓練 -----	P20
・リスクへの取り組み -----	P21
・設備紹介 -----	P22
・代表者による全体の評価と見直し -----	P23

クレバー産業のあゆみ

- 1978年 電子機器部品組み立てを主とする事業にて創業
- 1979年 試作及び量産品プリント配線板製造開始
- 1981年 法人設立。クレバー産業株式会社発足
プリント配線板製造事業に完全移行
- 1984年 大阪府東大阪市宝町に本社工場完成。各種NC機器導入
- 1989年 資本金1,000万円に増資
- 1999年 加工部門を専業としルーター・Vカット加工設備を増強
- 2008年 検査設備(画像処理測長機)、加工データ作成機(CAM)を増強
- 2013年 樹脂板、金属板事業拡大のため生産設備を増強
- 2014年 エコアクション21をモデルに環境経営を開始
- 2015年 なにわエコ会議「二酸化炭素削減コンペ」省エネ努力賞を受賞
- 2016年 エコアクション21認証を取得 
- 2017年 なにわエコ会議「二酸化炭素削減コンペ」努力賞を受賞
大阪ものづくり優良企業賞を受賞
「COOL CHOICE」に賛同  
- 2020年 事業継続強化計画 に認定
- 2021年 なにわエコ会議「二酸化炭素削減コンペ」努力賞を受賞
- 2022年 健康企業宣言「銀」 に認定 
同友エコ奨励賞を受賞
- 2023年 健康経営優良法人2023 に認定  2023
同友エコポピュラー賞を受賞
同友エコ奨励賞を受賞
- 2024年 なにわエコ会議「二酸化炭素削減コンペ」優秀賞を受賞

経営理念 / 環境経営方針

経営理念

私たちは、独自の技術を追求しつづけ、良いものを作ります。
私たちは、互いに協力し信頼を深め、品性を磨きます。
私たちは、関わる全ての人の心を豊かにする会社になります。

環境経営方針

当社は日本有数の中小企業密集地・東大阪の一角にあります。

河内平野の東、生駒山の麓に位置し、工場や民家が密集した地域でありながら、生駒山の豊かな自然にも恵まれています。

当社は薄板切削事業を通じて、自然環境や地域社会との調和を目指し、自主的かつ積極的に環境改善活動を全社員で継続的に展開します。

- 1 環境関連法規と当社の約束事項を遵守します
- 2 事業活動全般において二酸化炭素排出量の削減に取り組みます
- 3 省資源・廃棄物削減・リサイクルを推進します
- 4 節水に取り組みます
- 5 経営指針書に基づく品質・製造・環境目標の達成に努めます
- 6 環境に配慮したものづくりに努めます

制定日：2015年1月5日

改訂日：2020年6月26日

代表取締役

辰巳文吾

組織の概要

事業者名 クレバー産業株式会社
代表者 代表取締役 辰巳 文吾

所在地 本社 大阪府東大阪市宝町15-10

環境管理責任者 小山 雅之
環境事務局 川上 寿夫 大谷 幸馬
連絡先 TEL:072-984-4627
FAX:072-981-6536
E-mail:cleveryo@basil.ocn.ne.jp
URL:http://www.clever-jp.com

事業内容 プリント配線基板及び樹脂板・薄板の製造、加工、販売
主要製品：プリント配線板

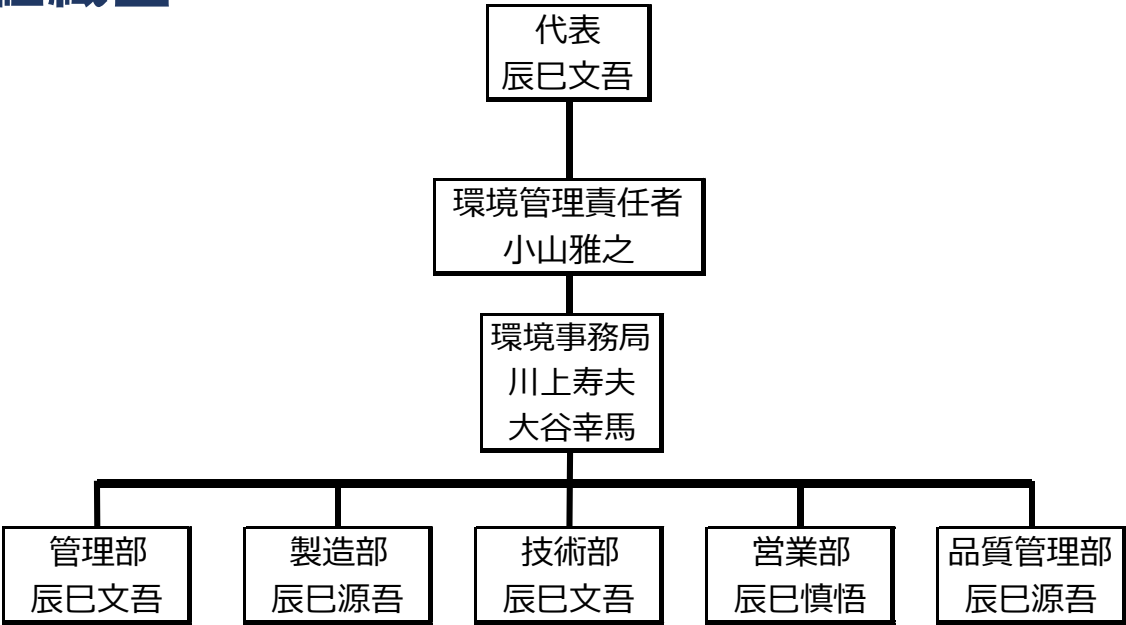
事業年度 9月1日～翌年8月31日

資本金 1,000万円
生産平米 20,575m²（2022年実績）

	本 社
従業員数	10人
延べ床面積	322m ²



組織図



	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムに実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定 ・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標、環境活動計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境活動レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境目標、環境活動計画書を確認 ・環境活動の取り組み結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの確認
環境事務局	・環境活動責任者の補佐、環境会議の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境目標、環境活動計画書の原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表をの作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーション窓口 ・環境活動レポートの作成、公開（事務所に備え付けと地方事務局への送付） ・環境活動計画の審議 ・環境活動実績の確認、評価。
各部門	・自部門における環境方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門に想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成、試行、訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的、積極的に環境活動へ参加

主な環境負荷の実績 経営指針書の目標・評価

主な環境負荷の実績

項目	単位	41期	42期	43期
二酸化炭素総排出量	kg-CO2	65,396	56,960	43,463
Scope1(化石燃料)	kg-CO2	15,719	15,559	12,918
Scope2(電力)	kg-CO2	49,677	41,401	30,545
廃棄物廃出量	kg	6,555	6,390	3,625
一般廃棄物排出量	kg	230	240	50
産業廃棄物排出量	kg	6,325	6,150	3,575
水使用量	m ²	58	74	71

経営指針書の目標・評価

環境

2023年	環境経営レポートを作り込み エコフェスを受賞する	パートナー制の継続により、活動が途切れず進んだ。 担当者のコメントを載せたレポートや活動内容をSNSで発信した結果、エコフェスの全国と大阪で賞を受賞できた。エコアクション21の地域事務局主催のセミナーにて当社の取り組みを紹介する機会をいただき自信に繋がった。 来期は製造部と協力し主業務で環境活動の成果を上げたい。
2024年	ツール寿命管理と各自担当活動でSDGsに貢献する。	今期は電気プランの変更により、二酸化炭素排出量が実質0となったため「7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに」というSDGsの目標に対して大きく貢献することが出来た。 また、前期より継続しているパートナー制をさらに先へと進めることができ、それぞれが各自担当活動に取り組むのはもちろんのこと、自分の担当以外の活動に協力するケースや、環境委員への相談なども増え、会社全体として活動が円滑に進むようになってきた。 SDGsの17の目標のひとつ「17.パートナーシップで目標を達成しよう」という目標にまた一歩近づいたと実感している。 ツール寿命の管理について検証を行ったが、今期は仕事量により大きな成果は得られなかった。 来期もこのパートナー制の良さを引き継ぎつつ、よりよい成果を上げられるようにしたい。

経営指針書の目標・評価

品質

2023年	機械設備管理を徹底し、不良撲滅・タイムロス低減を目指す	機械設備管理不備による不良発生の撲滅及びトラブル対応によるタイムロスの低減を目指し、消耗部品の交換頻度の適正化、マシンメンテナンスの定期実施の徹底、又各マシンのトラブルを改善を実施。
2024年	作業方法・手順を再検証し、安定した品質環境を維持する	今期は4M(人・機械・材料・方法)の中よりMethod(方法)をメインテーマに上げ、取り組みを行ってきた。 施策としては、作業方法及び作業ルールの再確認及び重要性を再度各作業者に理解して貰い、個々の作業を見直す機会とし、安定した品質を維持出来るように取り組んできた。 成果としては、各作業者危険性のある独自の作業法はなく、しっかりと作業ルールを遵守出来ていることを確認できた。作業要領書の振り返りについては、一部改訂が必要な内容の書類があり、現状に沿った作業に改訂することが出来た。 作業面及び管理面ともに良い結果が得られたと判断する。

製造

2023年	課題・問題点を改善し、製造部門としての強みを増やす	製造部の強みを増やす事を課題とし、問題点を追求し解決に導く為のミーティング強化、生産性向上に向けた改善案の実行を取り組みとし実施。生産性向上の改善案は順調に進行中、課題解決型ミーティングへの移行が上手いかず時間を要した。
2024年	各部門との連携を図り、作業品質を確立する	今期は各部門との連携テーマに施策を決定し、取り組みを行った。 技術部との連携施策は、技術案件を製造部として展開し、作業方法の確立及び生産者の追求をテーマに取り組みを行った。 0.6mm細経の条件出し及び寿命検証に関しては、検証から結論出しまでの作業を各自が役割を果たし、テーマに対して明確な結論を出すことができた。他の案件に関しては、新たな知識習得という意味で各々のレベルアップになった。 環境部との連携施策は、ツール寿命の追求と管理のテーマで取り組みを行った。 前年の強みを作るテーマでの反省点を活かし、1月後半には活動スケジュールを立て、目標達成に向けて早々に活動を進めることが出来た。但し、最終的な成果として、内部的には一定の評価出来る結果を得られたと思うが、外部への発信としての結論が曖昧になってしまった事は反省点として捉え、来期に繋げなければならない。

環境経営計画の取り組みとその評価、 次年度の取り組み計画

取り組み活動

関連するSDGsの項目

電力による二酸化炭素排出量の削減

P10～11



自動車による二酸化炭素排出量の削減

P12



一般廃棄物の削減（紙類）

P13



廃プラの削減

P14



水道水の削減

P15



削減量の推移

P16

- ・2016年(基準年)から2024年までの数値の推移
- ・電力による二酸化炭素排出量の削減についての補足

環境経営計画の取り組みとその評価、次年度の取り組み計画

電力による二酸化炭素排出量の削減



担当者のコメント（電力による削減）

電力削減のため、無駄な稼働がないか確認として声をかけようとしたが、あまり実行することが出来なかった。今後はもっと声をかけ出来るようにしたい。

家では使っていない部屋の電気を消すように意識するようになった。

総括

- ・今期後半から多能化導入により、作業の時間短縮が出来るようになった。
- ・声をかける以外にも、策は無いかをこれから探していきたい。

次年度から

- ・多能化の効果が現れるように、引き続き実施、期待したい。

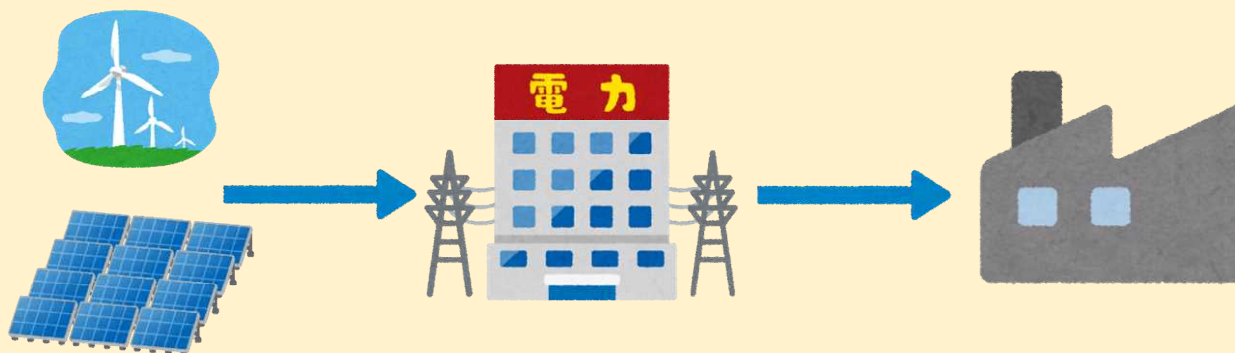


電気プランを再エネプランに

再エネプランとは

太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーを電源としたプラン。再生可能エネルギーの割合が100%のプランであれば、CO2排出量が実質ゼロの電気になります。

当社でも2024年4月から再エネプランに切り替え、CO2排出量実質ゼロとなりました。厳密に言うと、冬場に灯油ヒーターを使っているので、完全なゼロとは言えませんが、こちらも何か灯油ヒーター以外の暖を取る策はないかと考えています。



電力による二酸化炭素排出量の削減

担当者のコメント（緑を増やす）

1年間活動してみて、あまり見栄えが良くならなかった。後半は種から球根に変更した。想像以上に力強い芽が出て、7月には綺麗な花が咲いた。

今後は継続しつつ、見栄えにも気を配りたい。
ハチも寄ってきて、環境の循環を感じる事が出来た。

総括

- ・今期は花を咲かせることが出来た。
- ・しかし日中の暑さの影響か、1週間程度で枯れてしまった。

次年度から

- ・年間を通して花を咲かせる目標は達成することが出来たので、来期はもっと多くの種類を咲かせたい。

担当者のコメント（空調効率の向上）

最初の頃は一人で活動していたこともあり具体的な成果があまり出なかった。
4月以降は環境委員にも協力してもらい、コンプレッサー室の温度管理や、空調管理に具体的な策を取り組めるようになった。

来期は暖房について考えていきたい。換気扇を切る、夏場と逆のことをしてみるとどうなるのか？などいろんな策で挑戦していきたい。

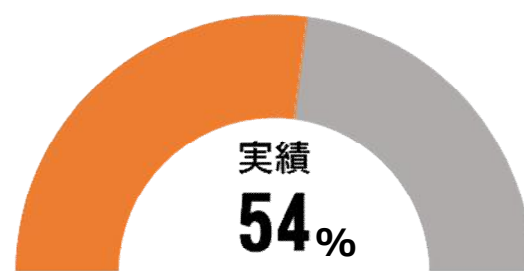
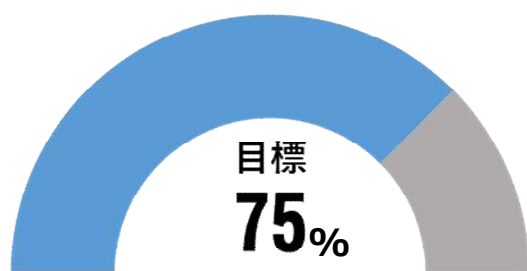
総括

- ・夏場の冷房やコンプレッサー室の温度管理など環境委員に協力を仰ぎつつ、具体的な策を実施できた。

次年度から

- ・来期は環境委員と相談しつつ、さらに空調効率を上げられるようにしたい。また冷房だけでなく冬場の暖房についても取り組んでいきたい。

基準年度に対する目標と実績



数値目標と実績		達成状況
目標：42064kg-CO2	→ 実績：18825kg-CO2	○
目標：基準年比75%	→ 実績：基準年比54%	
取り組み計画		達成状況
・空調効率の向上		○
・作業時間の短縮で電力を削減する		△
・緑を増やす（緑のカーテンなど）		○

※基準年度 2016年度

自動車による二酸化炭素排出量の削減



担当者のコメント

今期一番感じたことは、ハイブリッド車を導入したことで、環境に配慮した運用の選択肢が増えたこと。

今の車はいろんなスコアが表示されるので、どちらが効率的に運べるかを比較して納品を行える。

一方で従来のディーゼル車が走行距離20万kmを超えたため、今後買い換える際、車種の選択が大きな課題となりそう。



総括

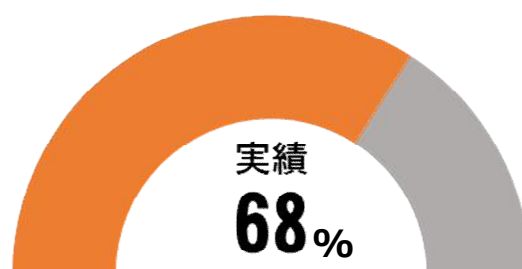
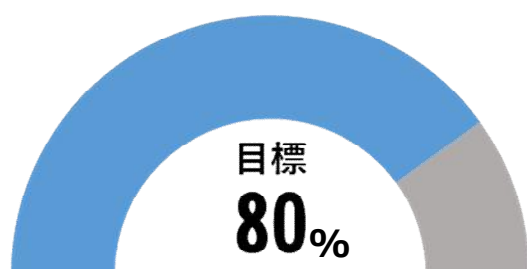
- ・通常運行においては目標達成のための施策は実施できていた。
- ・ハイブリッド車での納品業務に可能な範囲で振り替えており、ディーゼル車のメンテナンスをセーブしながら現在も維持に努めている。

次年度から

- ・今後も引き続き、燃費走行やCO2排出に考慮して納品時の配車を割り当てていく。
- ・また今後の経営状況を見つつ、ディーゼル車の運用についても考えていく。



基準年度に対する目標と実績



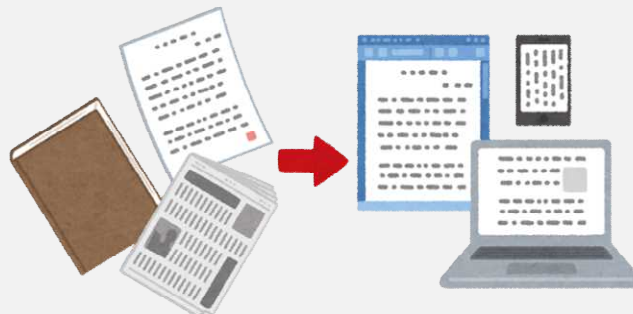
数値目標と実績		達成状況
目標：12902kg-CO2	→ 実績：10901kg-CO2	○
目標：基準年比80%	→ 実績：基準年比68%	
取り組み計画		達成状況
・エコドライブ等の運転方法の配慮		○
・駐車による移動ロスを減らす		○
・燃費確認		○

※基準年度 2016年度

担当者のコメント

昨年に引き続き紙の削減を行っている。自分の業務と直結しているため、取り組みやすかった。

近年では電子化の流れになっているため、請求書も紙から電子化したので、印刷することも減り、環境に配慮した活動が出来た。



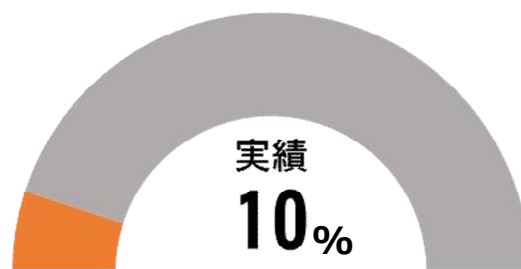
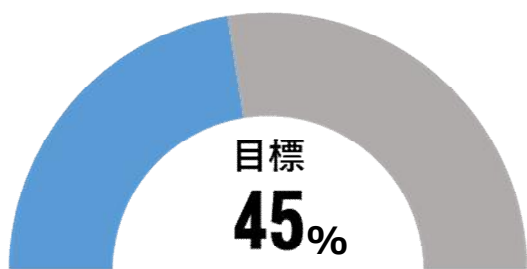
総括

- ・今期も全体的な紙の使用が少なく、紙のリサイクルの方は郵便物がだんだん減少傾向にあり再利用可能な紙もあまりなかった。
- ・数字でも平均20枚前後だったのが、今期では10枚以下になった。

次年度から

- ・営業事務の方でも紙を使わない方向にシフトし、請求書を紙から電子にシフトチェンジしており引き続きペーパーレスの成果が出るよう努める。
- ・メール・データFAX送信も前年より2倍近くで進んでおり、ペーパーレス化も早いスピードで結果が出ているので、この流れに乗って施策を推し進めたいと思う。

基準年度に対しての目標と実績



数値目標と実績		達成状況
目標：221kg	→ 実績：50kg	○
目標：基準年比45%	→ 実績：基準年比10%	
取り組み計画		達成状況
・梱包材、不要郵便物の再利用		○
・ペーパーレス化の推進		○

※基準年度 2016年度

担当者のコメント（3R活動の推進）

今期は皆の協力のおかげで廃材を使っている物が作れました。しかし昨年同様、リデュースの部分が出来ませんでした。

いろいろな物を作っているうちに、周りも影響を受けて廃材の再利用をするようになりました。

総括

- ・今年は周りの協力もあり、昨年の7件から3件増えて、10件制作することが出来た。

次年度から

- ・来期は担当者が変わりますが、改善活動にもなるので、引き続き3R活動の推進には取り組んでいきたいと思います。

担当者のコメント（不良の削減）

最初は環境と不良の結びつきをあまり理解出来ていなかったが、不良傾向のグラフを作ったり、不良に対してのフィードバックを行うことで、不良を削減することができた。

結果的に環境への負荷が軽減され、自分自身の製造部としての知識も向上できた。

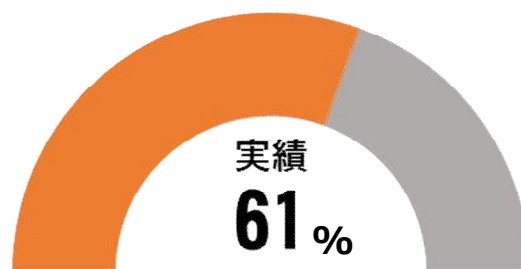
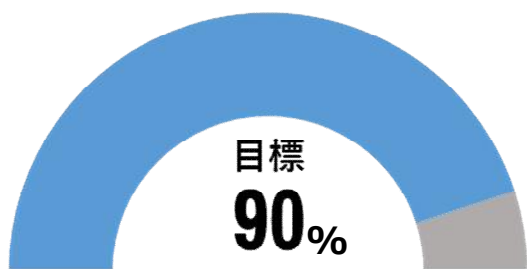
総括

- ・不良のフィードバック、不良傾向をグラフ化するなど、いろんな方面から不良の削減に関して取り組んだ。

次年度から

- ・来期から製造部のベテランの方に担当が変わるので、長年の経験を活かした活動に期待したい。

基準年度に対する目標と実績



数値目標と実績		達成状況
目標：5280kg	→ 実績：3575kg	○
目標：基準年比90%	→ 実績：基準年比61%	
取り組み計画		達成状況
・不良の削減（是正・予防に努める）		△
・3R活動の推進		○

※基準年度 2016年度

担当者のコメント

今期も引き続き節水を呼びかけた、社内全体で節水意識が高まってきているが、目標に対しては少し達成に届かなかった。

当社は製造工程に水を使うことはほぼないので、生活用水の削減で来期は目標を達成出来るようにしたい。



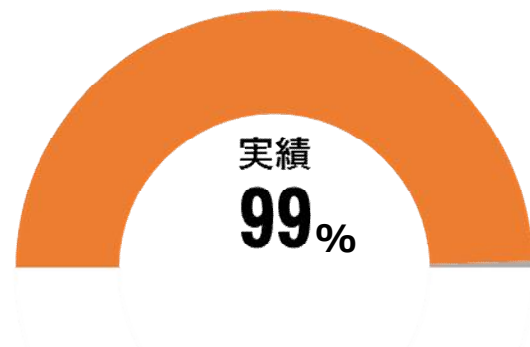
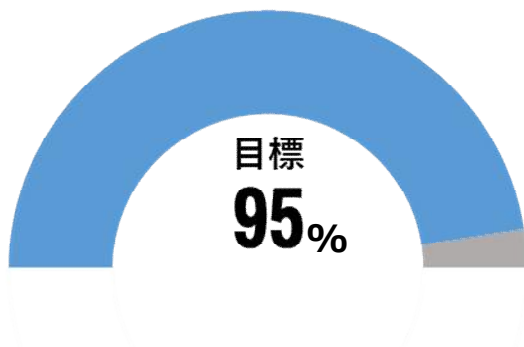
総括

- ・水道水の削減は昨年の活動を継続しつつも、CO2削減のために緑を増やした結果、水の使用量が増えた。

次年度から

- ・節水の呼びかけについては引き続き継続して行う。
- ・目標に対して、減らせる部分を探りつつ、来期は目標を達成出来るようにしたい。

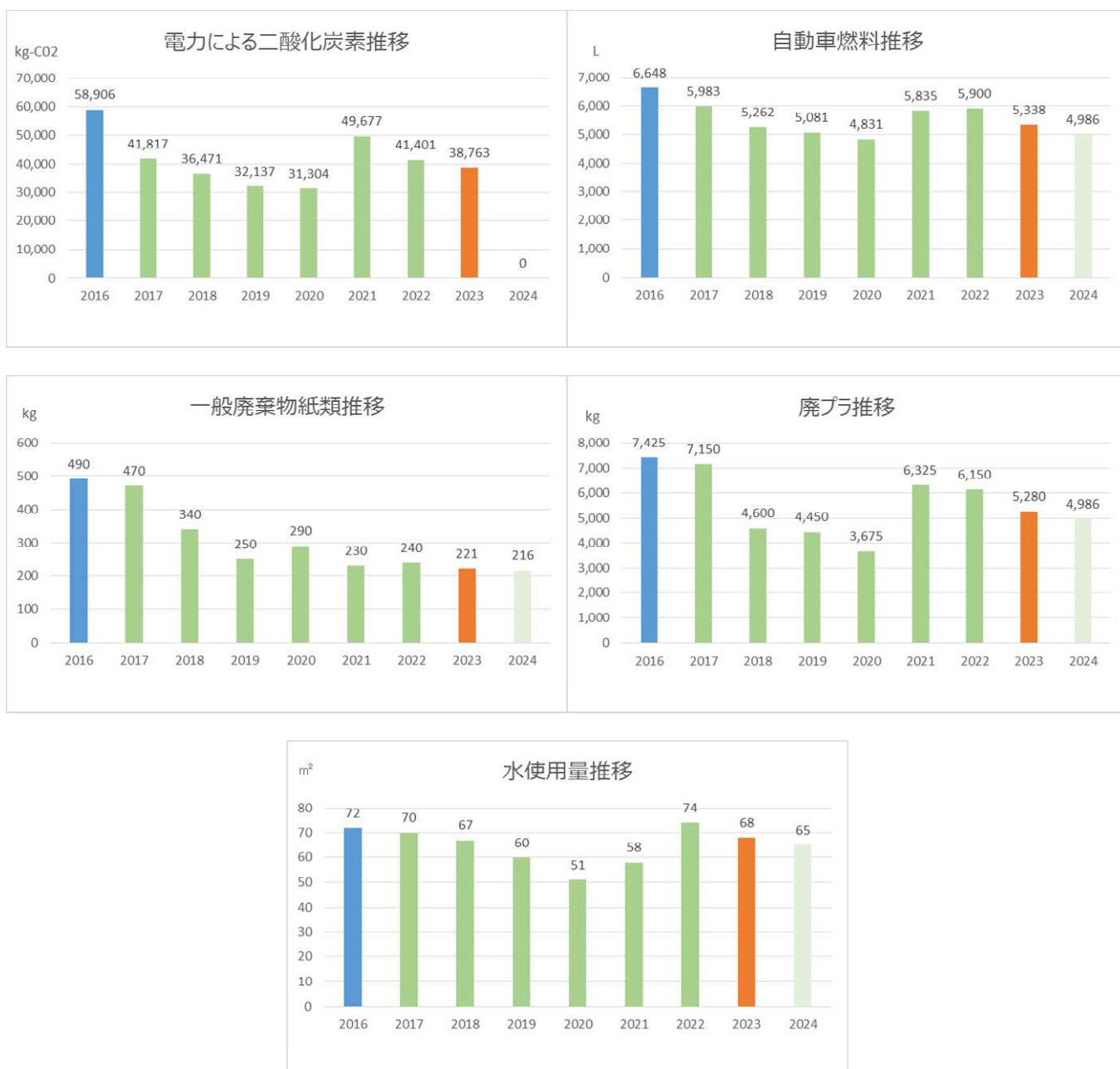
基準年度に対しての目標と実績



数値目標と実績		達成状況
目標：68m ³	→ 実績：71m ³	✕
目標：基準年比95%	→ 実績：基準年比99%	
取り組み計画		達成状況
・水を使用する際は節水を心掛ける		○
・水道配管の漏水を定期的に点検する		○

※基準年度 2016年度

削減量の推移



「電力による二酸化炭素排出量削減」についての補足

電力による削減、グラフ上の2024年度(来期目標)の数値が0となっていますが、前述のページで取り上げた、電気プランを再エネプランへ変更したためです。

再エネプランに変更することにより、実質的な二酸化炭素の排出はゼロとなり、現状のままだと開始時点で目標達成となってしまいます。

来期からは取り組みのタイトルを「**電力によるゼロカーボンの維持、消費量の削減**」と変更し、データを取る項目も「kg-CO2」から「kWh」に変更になります。

環境目標・実績

環境目標・実績

項目	年度	基準値	2023年			2024年	2025年
		基準年	目標	実績	達成状況	目標	目標
電力による二酸化炭素削減 (CO2換算 係数0.497kg-CO2/kWh)	kg-CO2	56,085	42,064	18825	○	39250	36455
	基準年比	2016年	75%	54%		70%	65%
ルーター稼働率原単位 (kg-CO2/ルーター稼働率)	-	29,901	25,958	9530	○	24336	22713
	基準年比	2016年	80%	29%		75%	70%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO2	16,127	12,902	10901	○	12095	11289
	基準年比	2016年	80%	68%		75%	70%
燃費評価 (km/L)	km/L	8.45	9.38	7.52	○	8.53	8.61
	基準年比	2017年	11%増	20%減		1%増	2%増
一般廃棄物の削減(紙類)	kg	490	221	50	○	216	211
	基準年比	2016年	45%	10%		44%	43%
廃プラの削減	kg	5,866	5,280	3575	○	4986	4693
	基準年比	-	90%	61%		85%	80%
水道水の削減	m ³	72	68	71	×	65	61%
	基準年比	2016年	95%	99%		90%	85%

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

適用される法規制	適用される事項（施設・物資・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（廃プラ）
騒音・振動規制法	空圧機
フロン排出抑制法	空圧機用エアドライヤ、空調機
健康増進法	屋内禁煙
顧客要求事項	化学物質管理、顧客の監査、RoHS指令対応、納期厳守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されました。
なお、違反、訴訟等はこれまでありませんでした。

環境委員の活動の紹介



屋上への日除けの設置

エアコン稼働前の作業として、室外機への日除けの設置を行いました。高所かつ柵もない危険な場所での作業なので慎重に行います。当日は風も強く3人がかりでも苦労しましたが、結果としては良いものが出来たと思います。



倉庫の整理



物がとにかく適当に積まれている状態だった倉庫の整理を行いました。

乱雑に物が置かれている状態だったので、空で置いてあったボックスの中に部品等入れるなどして、無駄なスペースの縮小を目指しました。

○年以上使っていないものは捨てるなど、ルールを決めて、更なる改善に努めたいと思います。



棚の整理



上記の倉庫の整理と並んで、今期の5S活動の取り組みとして取り上げられた棚の整理です。

1階の棚は薄板の材料や様々な器具、梱包材など、その場所に置いた人しかわからない状態になっていました。それに対して2階の棚は比較的余裕もあり、まだ物が置けるスペースもあったため、今回を機に整理することにしました。

何年も使っていないような不要な物は廃棄、機械系の部品は余裕のある2階の棚へ移動させることになりました。

スペース自体はあったものの、置く物がこれまでより高さのあるものもあったため、棚の組み替えなども行いました。想定していたよりも重労働にはなりましたが、以前よりすっきりした見た目になったと思います。



引き続き、更なる改善を目指していきたいと思っています。

環境活動での受賞

なにわエコ会議、優秀賞受賞

なにわエコ会議、CO2削減コンペにて優秀賞を受賞しました。今回は優秀賞ということで、受賞式と取り組み事例の紹介で、なにわエコ会議現地にも参加しました。たくさんの企業さんが来られており、この中で優秀賞をいただけたと思うと、光栄に思います。

普段は製造業という職業柄、人前で話す機会も多くないため、とても緊張しました。

最後の講評でもパートナー制や交代制など、当社ならではの施策を評価していただいたり、閉会後に「発表良かったよ」とお褒めの言葉をいただき、自信に繋がりました。



↑ 発表時の様子

← 賞状授与の様子



エコフェス ポピュラー賞

当社のエコアクション21は、中小企業家同友会の認証取得セミナーに参加し取得しました。取得後もグレードアップセミナーなどに参加し、環境経営レポートの向上を図りました。

その時にセミナー会場で同友会が主催するエコフェスを紹介していただきました。

当社の外部評価を得られると同時に、コメントが活動のヒントになると思い応募しました。評価のコメントはクレバー産業の環境年度方針の参考にもなる程。そのため、エコフェスには毎年応募しています。

エコアクション21の審査員の方もエコフェスを知っており適切なアドバイスを頂ける事もあり、ポピュラー賞などの受賞に繋がっています。



防災訓練

昨年末、地震による火災を想定した避難訓練を実施しました。

これから30年以内に70～80%の確率で起こると言われている南海トラフ地震では、弊社の所在地、東大阪でも非常に強い震度の地震が来ると予想されています。

今回の避難訓練では「災害が起きた際の行動」について各フロアで、各々意見を出し合い、情報共有や意見交換を行いました。様々な意見が出ましたが、今回は特に窓や扉に関する意見が多く出ました。

状況により開けておく方がいい状況、閉めておくべき状況などありますが、当社では全体として避難経路の確保を優先した、開けておくべきという意見が多く出ました。

一方で「真っ先に逃げ出す」や「動画を撮りに行く」など現実には起こった際にありえそうな意見もでした。

最後は消火器を使った初期消火の判断基準を再度確認し、今回の訓練は終了となりました。



今回は各現場に赴いて、それぞれ意見を伺う形式になりましたが、どうしても想像等で考えてしまうものも多く、意見は交換できたものの、具体的に表すには不十分になってしまったという反省点があります。次回はもっと実践形式で、今回の訓練の意見も踏まえた防災訓練にしたいと思います。

防災用品の再確認

当社に備えてある防災用品を再確認しました。各階の消火器の位置や、避難はしごなども実際に出してみました。避難はしごは普段、目にする機会もないので、初めて見た社員さんもいたようです。

消火器の周りにトラマークを貼るなどして、消火器前の物置などの防止等改善していきたいと思えます。



↑ 避難はしご
← 左から1F、2F、3Fの消火器

リスク管理への取り組み

緊急事態 試行・訓練

作成日：2023年12月13日

(報告)	承認	作成
辰巳文	小山	大谷
社長	環境管理責任者	環境委員

日 時	2023年12月13日 午後1時30分～25分間
試行・訓練の内容	内容：地震による火災を想定した避難訓練
	・1階Vカット機械横の灯油ヒーターが火元と想定した。 ・各フロアの担当者にそのときの行動や対処など意見を出し合いました。 ・消火器を使った初期消火の判断基準を再確認した。
	参加者：辰巳文・辰巳慎・辰巳源・武田・村田・川上・加藤・小山・渡部・藤原・大谷
担当部署 責任者	環境管理責任者
試行・訓練結果 の評価	・今回は各現場に行き、それぞれの意見を聞きました。 ・どうしても想像で考えてしまうので、意見交換はしたが、具体的に表すのが不十分でした。 ・来期はそれを踏まえて訓練の取り組み方を考えていきたい。
手順書変更	手順書の変更の必要性： ☐ 有 ☒ 無 （該当項目を■）
備 考	

- ・想定した緊急事態への対応策を試行・訓練を実施した場合に記録する
 - ・試行は手順が有効であるか、機器が適切に機能するか、手順書通りに実施できたかを確認すること
 - ・重大な緊急事態が発生した場合は、問題点処置票を用いて再発防止と類似事態の発生の予防策を行う
- 保管：環境事務局

設備紹介

◇NCルーター機



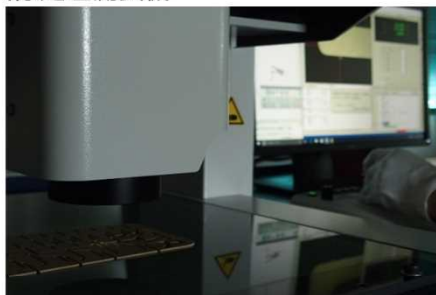
- ・ 2軸機×5台
- ・ 4軸機×2台
- 〔碌々産業製〕
- 加工可能寸法 最大 520×600mm
- 特殊大判加工 最大 1000×600mm

◇NCVカット機



- ・ 2軸機×2台
- 〔ショーダテクトロン製〕
- 加工可能寸法 最大 450×450mm
- 加工可能板厚 0.4～2.4mm

◇画像処理測長機



- ・ 2台
- 〔ステラコーポレーション製〕×1台
- 〔ミットヨ製〕×1台
- 測長可能寸法 最大 610×610mm

◇端子面取り機



- ・ 1台
- 〔ショーダテクトロン製〕
- 面取り角、深さ 可変式
- 加工可能面取り角度 20～45°

代表者による全体の評価と見直し

[環境経営方針]

変更の必要性： ☐ あり ☒ なし

当方針で継続する。

[目標・環境経営計画]

変更の必要性： ☐ あり ☒ なし

- ・今期の取組「ツール寿命管理」はより工夫すれば原単位等で成果（結果）は示せたと思う。
- ・他部門との連携は部門どうしお互いに役割と落としどころを計画段階で確認するべき。ここが曖昧だったため中途半端になったのだと思う。成功すれば相乗効果も期待出来るので機会があれば再度挑戦してほしい。
- ・5S活動では「整理」に踏み込んだ事に成長を感じます。会社の中がスッキリした。

[実施体制・その他]

変更の必要性： ☐ あり ☒ なし

閑散時期に環境活動に時間を使うのは問題無いが、自分の所属部門の仕事との配分を考慮する事、計画的に時間を使う事を心掛けて欲しい。

[総括]

経営者が環境委員から外れても活動はしっかり維持、発展出来ている。また他社の模倣では無く、自社の特徴をいかした取組に挑戦している。自立した環境活動が出来ている。